

世界に誇れる環境先進都市へ



Outline

保津川下りの船頭の清掃活動から始まった、環境先進都市への第一歩。環境を基軸にしたブランド力向上とシビックプライド醸成を目指す。

【背景・経緯】

たった2人の保津川下りの船頭の清掃活動をはじめとして、市民活動へと広がった。2012年には内陸部の自治体初の「海ごみサミット2012亀岡保津川会議」を開催し、川の清掃が海ごみの削減とつながっているという気づきを得て「川と海つながり共創プロジェクト」へと展開し活動が加速化。2015年に現市長（桂川孝裕氏）が「環境先進都市」にするというビジョンを掲げ、全市的な取組が開始された。

【実施方針】

2018年「亀岡ゼロエミッション計画」を策定、同年12月には「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を市議会とともに宣言し、環境を基軸にした、ブランド力向上とシビックプライドの醸成を目指している。

○「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」～目指す目標～

- 1 市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋禁止に踏み切り、エコバッグ持参率100%を目指す取組を進めます。
- 2 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる意識のつながりと呼び掛けます。
- 3 当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。
- 4 使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいてもリユース食器や再生可能な素材の食器を使用します。
- 5 市民や事業者の環境に配慮した取組を積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡市』のブランド力向上を目指します。

Point①

2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指す「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」

まず、市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋の提供禁止に踏み切り「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」を制定（2020年3月、施行は2021年1月）、市民のエコバッグ持参率100%を目指すライフスタイル変革への取組を進めた。

また、ごみの分別区分を拡大し、紙類、草・木類、プラスチック、小型金属類等の資源化を進め、焼却ごみ、埋立ごみの減少につなげるとともに、家庭から排出されたプラスチックを素材の一部に配合したごみ袋が完成し資源循環が実現している。さらに、使用済み紙おむつの資源循環・資源化の実証事業に取り組み、原料リサイクルの実験、処理工程の検証、回収スキームの検討などを行った。さらに、市内外への発信と人びとの交流を促す拠点として、ふるさと納税型クラウドファンディングを活用し、環境拠点施設「Circular Kameoka Lab（サーキュラーカメオカラボ）」を開設した。

Point②

民間企業との連携協定・パートナーシップ協定

亀岡市では企業との連携にも積極的に取り組む。地元店舗や大手メーカー等、25社との連携協定・パートナーシップ協定を締結し、亀岡市をフィールドとした実証事業等を推進している。2023年9月には、テラサイクルジャパン合同会社と「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を締結。同社とテトラパック社との連携により、これまでリサイクルが困難だったアルミ付き紙パックの回収・リサイクルをスタート。また、株式会社ごみの学校との連携協定では、WEBサイト「circular Kameoka（サーキュラーかめおか <https://circularkameoka.com/>）」を通じた発信強化を進めている。

Point③

「環境×芸術」HOZUBAG（ホズバッグ）

芸術とのコラボも亀岡市の特徴の一つ。エコバッグの普及に向け、亀岡市で盛んなパラグライダーの生地を使ったKAMEOKA FLY BAG Project を実施。使用済みのパラグライダーを回収、解体し、エコバッグへとアップサイクルするワークショップには200名の市民が参加した。現在は、亀岡発のアップサイクル商品「HOZUBAG」として全国で販売されており、市内の製造工場での雇用も生まれている。

- 環境拠点施設 Circular Kameoka Lab（サーキュラーカメオカラボ）
- アルミ付紙パックの回収
- HOZUBAGの販売

